

駒ヶ根市文化財

名称	光前寺の庭園
種別	庭園
指定	国・名勝(昭和 42・5・10)
所在地	赤穂 29
所有者	光前寺
説明	<p>天台宗の古刹(こさつ)光前寺は、貞観(じょうがん)2 年(860)に本聖(ほんじょう)上人によって開基され、以来学問寺・祈願寺として隆盛を極め、江戸時代には 60 石の御朱印地を持ったといわれ、今日に至っている。</p> <p>本堂の前庭と本坊西と南の庭園、仁王門からの参道の石たたみを経て三門・本堂に続く直線上の伽藍配置、それをとりまく境内林など境内全域(約 6.7ha)が国の指定となった。</p> <p>本堂の前庭は背後の山から引水し落としている。この滝石組は、蘭溪道隆(らんけいどうりゅう)(鎌倉中期の渡来僧、後の大覚禅師)式庭園として高く評価され、特に鯉魚(りぎょ)石は竜門式滝石組の特徴を表している。</p> <p>本坊西の庭園は前面に池を掘り、その背景は自然の傾斜地を築山として利用している。築山に巨石を立て庭景の中心とし、滝石組からの水は、大小の山石の間を流れ落ち、池泉に注ぎ、喬木の配置とともに深山の景観をかもし出している。また、本坊南には夢窓国師(むそうこくし)(室町時代の名僧、京都天竜寺の開基)相伝(そうでん)といわれる「築山式枯山水」風の庭園がある。</p> <p>これら庭園は中世の優れた手法を残し、幽邃静寂(ゆうすいせいじやく)の感がある。</p>



上左図：本堂前庭園
下左図：本坊南の庭園
下右図：本坊西庭園

